

# 化学療法治療レジメン

申請書  
計画書

〈主治医〉 → 〈薬剤部〉 → 〈化学療法委員会〉

〈主治医〉 → 〈薬剤部〉

芳珠記念病院化学療法委員会

治療レジメン名：	MM-7 DPd	総投与時間：約10分
申請医：青島 敬二Dr	催吐性リスク：最小度	最新登録日：2022年 5月

	薬剤名	投与方法	sw	投与日	クール
	ダラキューロ	s.c	1800mg/body	下記参照	4週間
	ポマリスト	p.o	4mg/body	D1-21	
	レナデックス(DEX)		20~ 40mg/body	下記参照	
	デキサート(DEX)	div	20mg/body		
対象(適応癌種)	再発又は難治性の多発性骨髄腫				
コメント	<p>・Infusion reactionに対する前投薬としてダラキューロ投与1時間前に【デキサート注20mg、カロナル錠1000mg、ネオマレルミンTR錠6mg】を投与する。 (1クール目d1にはモンテルカスト錠10mgも追加する)</p> <p>・75歳以上の患者にはDEXを20mg/週で投与することとする。</p> <p>・ダラキューロと赤血球上に発現しているCD38と結合し、間接クームス試験が偽陽性となる可能性がある。当該干渉はダラキューロ最終投与より6ヶ月後まで持続する可能性がある。ダラキューロ投与前に不規則抗体のスクリーニングを含めた一般的な輸血前検査の実施をすること。</p>				

## DPd療法 1~2クール目

	薬品名【投与量】	投与方法	投与速度	標準投与量	計算量	投与日
Rp1	カロナル錠500mg 2錠 ネオマレルミンTR錠6mg 1錠 服用 ※1クール目d1では モンテルカストOD錠10mg 1錠も追加  生食 50mL デキサート注 19.8mg ※ダラキューロ投与の1時間前に投与	div	500mL/hr			D1,8,15,22
Rp2	ダラキューロ配合皮下注【15mL】	s.c	臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、15mLを約3~5分かけて投与	1800mg/body		
Rp3	ポマリスト4mg 1cap/昼食後	p.o		4mg/body		D1-21
Rp4	レナデックス4mg 5T/昼食後		20mg/body		D2,9,16,23	

DPd

DPd療法 3～6クール目

	薬品名 【 投与量 】	投与方法	投与速度	標準投与量	計算量	投与日
Rp1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     カロナール錠500mg 2錠                      ネオマレルミンTR錠6mg 1錠 服用                 </div> 生食 50mL デキサート注 19.8mg ※ダラキューロ投与の1時間前に投与	div	500mL/hr			D1,15
Rp2	<b>ダラキューロ配合皮下注【 15mL 】</b>	s.c	臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、15mLを約3～5分かけて投与	1800mg/body		
Rp3	<b>ポマリスト4mg 1cap/昼食後</b>	p.o		4mg/body		D1-21
Rp4	<b>レナデックス4mg 5T/昼食後</b>			20mg/body		D2,16
Rp5	<b>レナデックス4mg 8T/昼食後</b>			40mg/body		D8,22